

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	知財見聞録 ギリシャの今
Title(English)	
著者(和文)	田中義敏
Authors(English)	Yoshitoshi Tanaka
出典(和文)	発明, Vol. 113, No. 1, pp. 40-41
Citation(English)	THE INVENTION, Vol. 113, No. 1, pp. 40-41
発行日 / Pub. date	2016, 1



知財見聞録

ギリシャの今

東京工業大学 イノベーションマネジメント研究科 教授 田中 義敏

新たに起こった社会問題

前号はギリシャの知財制度について概観したが、今号は、知財以外の分野にも目を向けてみたい。

欧州に「おんぶに抱っこ」の状態で世界中を震撼させておきながら、金融支援の合意後、国内では金融危機とは無関係の新たな犯罪が起きている。

金属探知機を購入して古代の貨幣や遺物を探して許可なく売りさばく族が出没し、犯罪の温床になっているというのだ。ギリシャが保有する歴史的遺産でカネもうけを企むような輩とは、もともとの誇り高きギリシャ人であろうか、あるいは他国からの移民であろうか？ 何とも残念な限りである。

オモニア広場にはご用心

犯罪といえば、嫌な記憶がある。

学会のパーティー会場となったレストランはアテネ市内のオモニア広場を通り抜けた場所にあったのだが、実は、そこがギリシャで最も危険地帯だといわれているのだ。

特に、広場から南西側のブロックに入った路地が危ないとの情報を筆者は後から耳にした。そこでは窃盗や強盗、暴行事件などが頻発しているため、常に周囲を警戒する必要がある。しかも、夜間は絶対に立ち入ってはならないとのこと……（いや、先に教えてよ!）。

学会に参加していた欧州人は、その情報を事前に把握していたのだろう。

筆者が、オモニア広場を通り抜けてレストランの入り口に着いた時、「まさか田中先生、そっちの路地から来たの!？」と、皆は驚いていた。

その反応を不思議に思いつつ、確かに路地は危険な臭いがして、ドキドキしながら早足を通り抜けたことを記憶している。不気味な体験であった。

後日、調べると『地球の歩き方』にも「夜間はアテネのオモニア広場に立ち入らないように!」と書いてあった。

ギリシャのように長い歴史と伝統を誇る観光都市アテネにおいても、このような犯罪多発地域があるとは……。世界は広い。まだまだ筆者の知らないことや予想もしないことがたくさんあるとあらためて感じたところである。

それにしても、一体、古代ギリシャ文明を築き上げた国民のアイデンティティーはどこに行ってしまったのか？

一度は訪れたいアテネの魅力

ギリシャの悪い点ばかりを書いたが、ここには「一度は観光で訪れてみたい」魅力がある。

アテネは、ギリシャの政治・経済・文化の中心地である。古代オリンピック発祥の地としても知られ、また、紀元前8世紀に成立した都市国家のなかでも、著しい発展を遂げた。

紀元前508年には、市民投票や比例代表制などが創設され民主政治の基礎を築いたといわれる。

アテネの見どころは、アクロポリス、フィロパpos、リカヴィトスの丘に囲まれたエリアに集中している。

アクロポリスにそびえ立つパルテノン神殿は、約2500年前に建造された。柱の傾斜、太さ、間隔は緻密な計算に基づいて設計されており、神殿の優雅さを醸し出している。



筆者の周りにはいつも素敵な女性が寄り添う



毎年、この学会で合うイタリア人の講師



エーゲ海に浮かぶイドラ島



イドラ島には白壁の家が立ち並んでいた

2009年、アクロポリスの丘の麓に新アクロポリス博物館がオープンした。

広々とした博物館の中には貴重な作品が数多く展示されており、かなりの資金が投下されたであろうことは一目瞭然。……しかし、いったいどのように予算を捻出したのだろうか？

それでもエーゲ海は美しい

古代ギリシャ文明の痕跡を残す丘とは反対側に目を向けると、そこには美しいエーゲ海が広がっている。

エーゲ海の島で有名なのは、ミコノス島、ロードス島、クレタ島であるが、そこまで行くとなると長時間を要するツアーになってしまう。そこで筆者はアテネ近郊のイドラ島とエギナ島に渡ってみた。アテネから約2時間。石畳に白壁の建物が並ぶ。実にエーゲ海らしい風景に出会うことができた。

アテネ郊外にも広がる世界遺産

アテネ郊外で遺跡の宝庫といわれるペロポネス半島北東部のアルゴリス地方にも足を伸ばし、世界遺産に登録され、観光名所となっているミケーネの遺跡やエピダウロスの劇場を訪れた。

ミケーネの遺跡は、小高い丘のような場所にあった。ここは古代ギリシャ以前の紀元前13世紀ごろに最も反映したとされ、ライオンの門や円形墳墓、黄金のマスクが出土したアトレイウスの墳墓などで知られている。

「なぜ、こんな山の上に文明が築かれたのだろう」と不思議に思ったが、当時、この地は交通の要衝として栄えていたようだ。

エピダウロスの古代劇場はギリシャで最も保存状態の良い野外円形劇場の遺跡であり、今でもコンサートが開かれているという。

古代エピダウロスは、紀元前6世紀ごろ、医療の神に捧げる聖域として開かれ、紀元前3～4世紀にはさまざまな建造物が建てられた。この野外円形劇場もその一つである。

ペロポネス半島北東部への移動中、深く切り立った断崖のコリントス運河を橋の上から眺めた。実にスリル満点である。運河の全長は6343m、幅34.6m、水深8mであり、ローマ皇帝が約6000人もの奴隷を使って3.3kmを掘削、1893年に完成させたのだという。

運河を航行する船が小さく見える。それにしても、よくこんな断崖を削り取ったものだと感心した。

ギリシャにおいては、欧州をはじめ世界中から支援を受けながらではあるが、古代からの歴史の重みとアイデンティティを保持しつつ、自国の成長力を回復させてほしいものである。



小高い山の上にあるミケーネの遺跡



コリントス運河の橋の上から撮影



エピダウロスの階段に集う学会参加者たち



すべての仕事を完了し、アテネに乾杯！